



# 未来へ

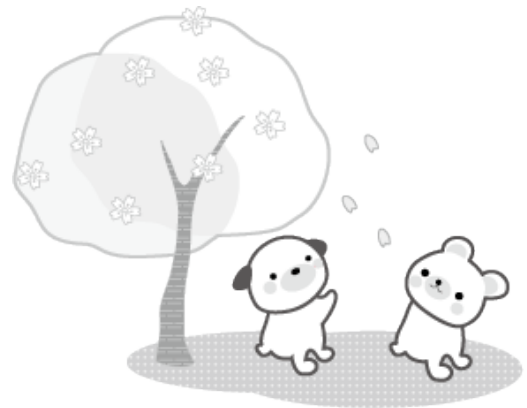
埼玉県立川越高等学校  
進路通信「未来へ」1号  
平成29年4月10日  
発行 進路指導部

## 昨年度の入試結果を見てみましょう！

### ◎ 過去3年間の主要大学入試結果 (4/10 現在)

国公立大学	2017春	2016春	2015春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
北海道大	8 (4)	8 (2)	7 (5)
東北大	11 (7)	6 (3)	17 (7)
筑波大	10 (6)	9 (7)	13 (6)
埼玉大	26 (13)	19 (15)	18 (16)
千葉大	6 (6)	4 (3)	6 (3)
東京大	1	6 (4)	6 (3)
東京工業大	4 (4)	6 (3)	9 (6)
一橋大	6 (4)	12 (6)	6 (5)
東京農工大	21 (15)	15 (13)	16 (8)
東京学芸大	6 (6)	7 (4)	6 (5)
東京芸術大	1 (1)		
東京外国語大	2 (1)	3 (1)	2 (2)
東京海洋大	1	4 (4)	4 (2)
電気通信大	3 (1)	4 (2)	1 (1)
横浜国立大	3 (2)	7 (4)	3 (2)
名古屋大	2 (1)	1	
神戸大	1		
京都大	2 (1)	3	1
大阪大	2 (2)		1 (1)
首都大学東京	5 (3)	8 (4)	6 (5)
国公立医学部	6 (2)	4	9 (1)
その他の大学	28 (13)	24 (9)	19 (7)
合計	149 (90)	153 (85)	152 (86)

私立大学	2017春	2016春	2015春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
早稲田大	77 (43)	121 (74)	110 (65)
慶應義塾大	32 (20)	38 (18)	35 (22)
上智大	21 (12)	31 (20)	22 (13)
東京理科大	101 (56)	92 (51)	120 (64)
明治大	138 (84)	144 (94)	162 (103)
青山学院大	10 (9)	20 (12)	22 (16)
立教大	59 (36)	74 (39)	52 (29)
中央大	74 (43)	58 (27)	50 (21)
法政大	53 (21)	54 (30)	74 (35)
学習院大	15 (6)	18 (7)	13 (3)
芝浦工業大	79 (50)	73 (37)	69 (26)
私立医学部	7 (1)	9 (3)	12 (2)
その他の大学	299 (127)	335 (185)	288 (115)
合計	958 (507)	1015 (534)	1076 (584)



### 昨年度の入試全体を振り返って

一昨年度入試から完全な新課程となりましたが、それもつかの間、今度は2020年度からの大学入試改革（センター試験が廃止されたりする予定のアレです）が近づいてきています。2020年度までのここ数年間は、新しい入試へ向けて問題傾向や募集形態が徐々に変化していくことが予想されます。昨年度入試も、大学ごとに様々な変化が見られました。そういった状況の中で大切なのは、本番の受験会場でどんな問題が出てきても、その場で適切に対応できるような、バランスの良い学力をつけることが必要です。そのためにはやはり、時間をかけてじっくり思考しながら学習することが必要です。1年生も2年生も3年生も、学習時間の確保と毎日の学習を積み重ねていってください。

## 本校の入試結果を振り返って

昨年度は、大学入試センター試験の平均点が上昇しましたが、本校でもセンター試験の 5 教科の平均点は例年以上の結果となり、特に現役生の平均点では県内公立高校で 3 位となるなど、好調でした。昨年度の 3 年生は、もともと中上位層が厚い学年でもあったので、センター試験の勢いをそのままに、国公立大学の現役合格者数が 90 名を超え、ここ数年で一番の合格者数となりました。一昨年度は大学のローカル化（遠くの大学ではなく地元の大学へ進学する傾向が強くなっている）ということがよく言われました。本校でも関東圏の大学に志願者・合格者ともに偏る傾向にありましたが、昨年度は京都大・大阪大・名古屋大をはじめとする関東圏以外の国公立大学への志望も多く（特に理系）、結果として幅広い国公立大学への合格者が出る結果となりました。

一方で、東京大と早稲田大の合格者数は昨年度に比べて減少しました。東京大に関しては、問題傾向の変化の影響が大きかったと考えられます。全体的な問題傾向の変化に加え、これまで得点のしにくかった教科、特に数学が易化したことで、バランスと地力のある生徒が有利になった印象です（全国的に見ても、ある一定以上のレベルの高校に合格者が集まる傾向があったように感じます）。近年特に中高一貫の 6 年制の高校が合格実績を伸ばしてきましたが、先に述べたように、これからの新入試に向けた変化の大きい時期には、時間をかけて地力をつけた生徒が強いのは明らかです。本校のような 3 年制の公立高校には厳しい時代になったとも言えますが、川越高校の生徒たちにはその時間的な厳しさを乗り越えられる地力が備わっています。ただ、その力を受験会場で発揮できるように間に合わせるためには、今まで以上に早くからの準備が必要です。大学受験を意識した学習を、特に 2・3 年生は今すぐに始めてください。日々の学習を今まで以上に積み重ねていくことしか学力は伸びません。目標を下げずに頑張ってください。

早稲田大に関しては、私立大学の入学定員の厳格化（入学定員を規定の割合<昨年度は入学定員 8000 人以上の大学で定員の 1.14 倍>以上に超えた大学には、補助金が不交付になるというルールが一昨年度から厳格化されました）や、文学部・文化構想学部の英語 4 技能テスト利用入試の実施（文学部で 50/440 人、文化構想学部で 70/500 人をこの入試に充てています）が影響していると考えられます。つまり、実質的に合格者が絞られたことによって、最後頑張って何とか合格へ届いてきた層が苦しくなったと言えます。定員の厳格化の一方で、志願者は増えており、さらにはセンター利用入試での合格者数は減らしていないとの話もあるなど、私大専願の生徒には来年度以降も厳しい状況が続いていくことが考えられます。東京大の場合と同じように、今まで以上に早くから対策をしていくことが必要です。教科数が少ないからと言って油断せずに、日々の学習を今まで以上に積み重ねていきましょう。

## まずは学習習慣の確立を！！<再び>

昨年度のこの号に載せましたが、少し改変して改めて載せます。日々の学習の参考にしてください。

### **(1) 毎日の絶対的な学習時間を確保する**

部活や行事などで忙しい毎日ですが、日々の学習なしでは学力向上は望めません。すき間時間（電車などの通学時間、学校での休み時間など）を活用するのはもちろんですが、特に数学や理科の問題にじっくり取り組むために、まとまった時間（最低でも 1 時間以上）を作り出してください。食事の前、寝る前、朝早くなど、生活スタイルによって時間をとれるタイミングは違うと思いますが、毎日固定すると続けやすくなります。毎日の学習時間の総合計も、昨年話題になった神奈川の某公立高校のように、平日：(学年+2) 時間、休日：(学年+4) 時間と言いたいところですが（難関大志望者はこのくらいは当然です）、近年の皆さんの学習時間を見ると、まずは平日：(学年+1) 時間、休日：(学年+3) 時間を目指してください。余談ですが、一昨年度東大と医学部に合格した先輩は、それぞれ夏休みに合計 500 時間（1 日平均 10 時間以上）やっていました。時間をしっかりかけた学習をしましょう。あと、スマホは 1 日 30 分まで！！<某予備校の調査では、現役合格者の 1 日のスマホ平均使用時間は、ゲーム 0 分、ラインなどの連絡・通話 30 分、でした！！>

### **(2) 目標を高く持つ**

入試結果のところでも述べましたが、“行きたい大学”を高く掲げて下さい。“東大とか自分が目指しているのかな…”と言う人もたまにいますが、川越高校に通っている以上、どの大学も目指す資格があります。自分がどこまで伸びるのかにチャレンジするのも、大学受験の大きな意義のひとつです。“この大学を志望しているんだ！！”と臆せずに言うてみてください。同じような仲間がきっといるはずですよ。そういう仲間をお互に見つけて、時には励ましあいながら切磋琢磨してください。我々も皆さんの志望校への頑張りを全力でサポートします。